

イセエビ

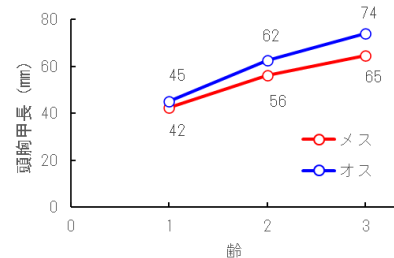
1 生態

- ・主に茨城県以南の本州から四国、九州及び台湾、中国に分布するが近年の海況変動により岩手県、宮城県での分布が報告されています。
- ・雌の腹肢に抱えられた卵からふ化したフィロゾーマ幼生は沿岸から黒潮の外側に移動し約300日間に約30回の脱皮を繰り返し、プエルルス幼生に変態後、沿岸に着底、脱皮し稚エビになります。
- ・稚エビ以降の成長は水温や着底時期により違いがみられますが、1齢で頭胸甲長（雄・雌）は45mm・42mm、2齢で62mm・56mm、3齢で74mm・65mmにまで成長します。

*「齢」：プエルルスとして着底後の推定経過年数。起算日は8月1日

- ・3齢で産卵し、産卵期は夏季です。
- ・貝類や棘皮動物、甲殻類、甲殻類、海藻を食べます。

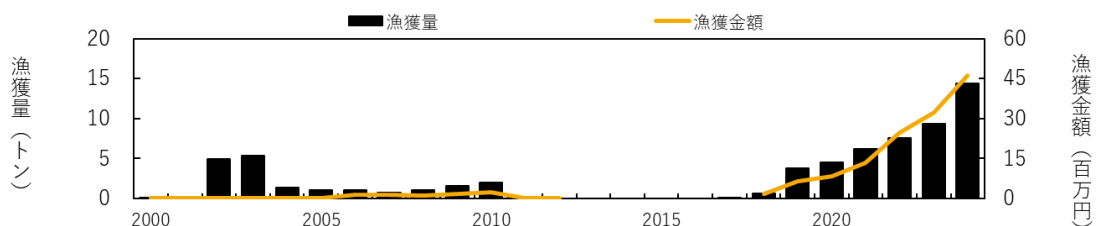
*「複数体長組成データの解析によるイセエビの成長と齢別組成および加入の推定」（山川1997）より右図を作成



齢と頭胸甲長の関係

2 漁業に関する情報

- ・主に春から秋にかけて、いわき地区において刺し網で漁獲されています。
- ・2011年3月の震災以降、操業自粛により水揚げはありませんでしたが、2017年（平成29年）8月から水揚げされています。
- ・近年、漁獲量が増えており、2024年（令和6年）は約14.3トン、約46百万円でした。



漁獲量と漁獲金額の推移 * 2013～2017年まで相対取引のため金額データ無

3 資源の状態

- ・資源の水準：高位、資源の動向：増加
- ・漁獲量の推移から、資源水準は高位で増加傾向にあると考えられます。

4 資源管理の取組み

- ・現在、実施されている取組みはありません。